

第2青函トンネル構想の早期実現を目指す 特別講演会を開催

令和5年3月12日(日)に函館国際ホテルにおいて、第2青函トンネル構想の早期実現を目指す特別講演会(主催:第2青函トンネル構想を実現する会)を開催しました。

当日は町内外から一般参加者のほか、国会議員や道議会議員、建設業関係者など幅広い分野から約200名の参加がありました。

講師は、京都大学大学院教授の藤井聡氏に依頼し「青函トンネルで北海道を再生し、日本を復活させる」と題して講演をいただき、第2

青函トンネルの必要性などを深める機会となりました。

講演会では、北海道が本州と青函トンネル1本でしかつながないことが、北海道全体が衰弱し続ける要因になっていると問題提起がありました。

九州や四国は複数の高速道路で本州とつながっており、生産された物が迅速にマーケットに運ばれることや、全国的に高速道路の周辺が栄えており、離れているエリアは成長率が低くなっていることの説明もありました。

また、第2青函トンネルが実現された場合の影響について、いくつか説明されました。

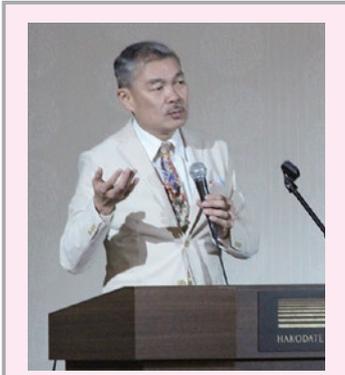
● 新幹線と鉄道貨物の区別ができることから、現在、減速している新幹線の速度向上により新幹線の需要増や産業活性化、沿線投資の拡大が期待されること。食料基地となっている北海道からの物流(鉄道)が円滑になり、輸送費用の減少から消費者全体にも好影響があること。

● 自動車専用道路も併用した第2青函トンネルになった場合には、トラック輸送の速度向上やコスト削減にもつながる。

● インフラ整備を行った地域が成長するのは、全国的に見ても確実であり、北海道だけではなく、青森県も成長することができる。

第2青函トンネルの実現が北海道全体に与える影響はとても大きなものであります。第2青函トンネルが必要だと理解している人はまだまだ少ないのが現状であり、多くの人に知ってもらうため、第2青函トンネルがなぜ必要なのかを講演会などを通じてこれからも発信してまいります。

「第2青函トンネル構想を実現する会」を設立後、新型コロナウイルス感染症の影響により、思うような活動ができていませんでしたが、令和5年度からは構想の実現に向け、オール北海道で活動が展開できるよう多方面に要望活動などを実施してまいります。



藤井 聡氏

京都大学大学院工学研究科(都市社会工学)教授、京都大学レジリエンス実践ユニット長、ならびに2012年から2018年まで内閣官房参与(防災減災ニューディール担当)。



第2青函トンネル構想の必要性などを深めるため、町内外から多くの方が参加